

金メダルが泣くぞ

五輪柔道金メダリストで九州看護福祉大学の客員教授を務めていた内柴正人氏（33）が、12月6日、同大学の柔道部員に性的暴行を加えたとして、準強姦容疑で逮捕されました。内柴容疑者は、既に11月29日、大学側から「教職員として適格性を著しく欠き、大学の信用を失墜した」として懲戒解雇されています。

内柴容疑者は、柔道の66キロ級で04年のアテネ、08年の北京両五輪を連覇しています。その後、09年4月に九州看護福祉大の非常勤講師となり、昨年4月に女子柔道部のコーチに就任、今年1月から同大の客員教授を務めていました。

報道などによると、内柴容疑者は、9月19日に未成年の女子部員と飲酒し、酒に酔って寝込んでいた女子部員に性的暴行を加えた疑いがあるとしています。

五輪二連覇という偉業を成し遂げた内柴容疑者の逮捕という事態は、日本の柔道界にとって大きな痛手であると思います。

また、内柴容疑者にしても、五輪金メダリストから指導者へ、そして大学の教師へと華麗な転身を遂げ、順風満帆であった柔道人生が一挙に暗転してしまいました。まさに、後悔先に立たず、ということです。

そもそも、未成年と飲酒すること自体言語道断ですが、あまつさえ、酔って寝込んでいる学生に対して性的暴行を働くなどということは、教師として許されるはずがありません。

彼には、教師として、学生との間に信頼に基づく師弟関係を築いていかなければならない立場にあることへの、自覚や責任感が欠落していたという他ありません。

内柴容疑者は、警察の調べに対して「納得いかない。合意だった。」と供述しているといいますが、問題に対する認識が甘いといわざるを得ません。仮に、「合意の上なら問題ない」と思っているのだとしたら、彼が教師になろうとし

たことは大きな間違いだった、と申し上げておきたいと思います。

ところで、こうした教師を巡る問題は内柴容疑者の事件に限りません。道教委によると、平成22年度中に猥褻事件で懲戒免職になった教師が6名もいるとの事です。平成21年度は4名ということですから、遺憾という前に呆れるばかりです。

教師だって人間なのだから間違いを起こすこともある、という人もいるでしょう。現実を見れば、それは否定し難いことですが、それでも私は申し上げたいと思います。

教師という崇高な仕事を選んだ以上、教師としての矜持を忘れず、その使命を果たすために全力を尽くせ。そして、ダメなものはあくまでもダメなのだ。

(塾頭 吉田 洋一)